

萌丘東幼稚園
萌丘東保育園 ほいくだより

ひがしっ子 12月

2022



先日の発表会ご参加ありがとうございました。去年より成長した姿が見られ、こみ上げてくるものが多かったことと思います。今年はコロナ禍ではありますが、多くの人数の大人たちに見守られながら発表会を実施することが出来ました。挨拶でも触れさせていたしましたが、東園に通う全ての大人もこどももみんな家族！という気持ちが溢れる東園でありたいと願っています。幼い頃から親元を離れて生活をするこども達にとって、愛されている実感を親以外の身近な大人たちからも沢山感じられることがこども達の自己肯定感に大きな影響を及ぼします。

自己肯定感とは人が生きていくアクセルです。もちろんアクセルだけでは事故だらけの人生になってしまいますから、他の人とも一緒に過ごす環境を沢山作って、ブレーキの具合を覚えながら小学校に進んでいって欲しいと思います。

さて、お正月。いよいよ3学期ですね。

安定した生活リズムから生活自立が進んで、できることが増えていく0～2歳児。これまでに培った信頼や自信もあって各種大会で真剣な表情を沢山見せてくれる3～5歳児。そんなこども達の成長を支えるために、やれることは自分でやるように伝え、できない様子の時は、その気持ちを耳を傾けてみてください。

発表会が近づいても

発表会が近づいてきたとしても、0～2歳児にとっては日々の生活リズムや習慣をいつも通りに過ごしていくことがなにより大切。そのため、温かい室内で指先を使った遊びで刺激をうけたり、戸外で落ち葉や霜柱など、この時期ならではの自然に触れて遊んだりしていました。そのことが、発表会のための保育ではなく、行事は保育の延長上にあり、一日一日を大切に過ごすことにつながっています。





発表会

発表会ではこども達が「言葉」に必要性や重要性を感じられるように、意識が向くためにはどうすればいいのか。そのために、この2～3週間を意識的に取り組んできました。その先生たちの情熱そのものが発表会のエネルギーと言えますね。それを遊びと言う形を通して、楽しみながら学んでいく。幼児教育という視点で見たときの発表会の姿です。



コイのエサやりのはずが...

今年は、久しぶりに年少さんの井頭公園の園外保育の付き添いに行ってきました。目をキラキラさせたこども達と一緒に行けたことで初心を思い出せた気がします。恒例のコイのエサやりでは、鴨たちが沢山寄ってきてしまって、ほとんどコイが食べられない様子も見られましたが、それはそれでこども達はキャッキヤと笑い合って、自然を満喫していました。



発表会に向けて

何かになりきって遊ぶ姿が沢山見られた先月から、自分が作ったものを見せたり、自分がみんなに説明したりと、より発表会の前段階の活動が沢山見られました。こういった活動が、発表会のこども達のやりきる自信に繋がってくれたことでしょう。また、ボランティアの方達が紙芝居等のお話を読み聞かせに来てくれました。発表会のお話をつくるときも、こども達もイメージを膨らませやすかったようです。

